

来春の延伸開業を待つ北陸新幹線の黒部宇奈月温泉駅（富山県黒部市）。駅舎にYKKAP製の大きなサッシ窓を使い、ホームから日本海と北アルプスの両方が望める趣向だ。

駅から車で5分の同社黒部牧生製造所には来春、建材の研究開発や検証機能を集約するR&Dセンターができる。開業後は今より1時間短い約2時間で東京と結ばれ、住宅メーカーなどの技術交流拠点になる。

YKKと建材子会社YKKAPは東京から本社機能の一部を黒部に移す計画を進めている。もともとファスナーや建材の生産・開発拠点のある黒部に約230人が移る予定だ。

吉田忠裕会長兼最高経営責任者（CEO）は「2時

編集委員
宮内禎一

経営の視点

高速鉄道時代の企業立地

間なら、本社機能がすべて東京にある必要はない。開ト削減③海外との直接取引発や製造の人材がそろっての増加がある。これをして黒部に集約したほうが高速鉄道網や格安航空会社話が多い」と語る。YKK（LCC）路線の充実が後APは人事、購買、国際部 押しつける構図だ。門などの多くが部長を含め 例えは、タイヤ国内4位 討しているとの調査もある

東京から分散効果生かせ

て黒部に移った。連携強化の東洋ゴム工業は2012年。地方移転は新卒採用にやリスタ分散が狙いだ。年に東京本社を廃止し、大も効果がありそうだ。かつては新幹線が開通す阪に集約した。1975年 27年に東京1名古屋を約40分で結ぶリニア中央新幹線の開業は企業立地をさら指摘されたが、「これから社機能を持たせたが、アジに変える可能性がある。は逆ストローもあると思アなどで独自に事業展開するケースも増え2本社制の「逆ストロー」の背景には 意義が薄れたという。ンサルティンクスの加藤義人・名古屋副本部長兼主席研究員はリニア開業後、東京駅周辺から名古屋駅周辺に

ズは7月、JR大阪駅北側のグランフロント大阪に開発拠点を新設する。きつかに希望が出たことだ。少子高齢化で、親元近くで就職を希望する学生も増える。15年卒予定の大学生の7割近くが地元就職を検討しているとの調査もある

従業員500人規模の本社のコスト減になると試算。「業種・業態によって名古屋移転もある」とみる。「欧州企業は地方に本社を置き、従業員が時間的にも豊かな生活が送れる価値観を提供している。日本でも時間やコストがかかる東京より、地方の拠点都市を見直す動きが増えるかもしれない」と指摘する。YKKグループは7月、黒部市の社宅跡地で暖冷房エネルギーの6割削減を目指す住宅地「パッシブタウン黒部モデル」の開発に着手する。充実した住環境を社員たちにも提供する狙いがある。高速鉄道時代、柔軟な企業立地が経営効率をあげるだけでなく、人材を集める条件になりそうだ。